

## 事例紹介

すす たこじま  
石川県珠洲市立 蛸島小学校

# 個別・学び合い・提示でeライブラリ!

## ～学年の状況に合わせて効果的に使い分け～

珠洲市立蛸島小学校では、『心豊かに未来を切り拓くたくましい児童の育成』を研究主題とし、小規模・複式学級の特性を活かして、各学年でICT機器を効果的に取り入れた授業を行っています。

### 4・5年生 間接指導にはタブレットで個別学習

4・5年生（複式学級）の瀬戸先生のクラスでは、「ずらし」の時間にタブレットを使ったドリル学習を行いました。

#### 導入とまとめにドリルで習熟

この日は算数の授業で、5年生が導入の場面にドリルで前時の復習を行いました。導入時にドリルで復習をすることで、**既習内容と本時の授業とを結び付ける役割**を担っているそうです。

そして、4年生はまとめの10分でドリルを使い、本時で学習した「がい数」の習熟を図っていました。

間接指導の時間にタブレットでの個別学習を組み込むことで、複式学級での**「ずらし」の時間を習熟の時間**として効果的に利用することができます。



▲ 集中して取り組んでいます

#### 「学習リーダー」が進めるドリル学習

ドリル学習の時間は、「**学習リーダー**」の児童がドリル単元の指示やタイムキーパーを行います。

学習する単元は先生から事前にリーダーに伝えられています。リーダーが中心に学習を進めることにより、**子どもの主体性**が生まれ、“今は学習する時間”という意識が自然と生まれます。

高学年のリーダーは自分たちの話し合ったことを先生に伝える役割も担っており、責任感も生まれるそうです。



### 研究主任 瀬戸 貴之 先生のお話



タブレットが導入され、まず「どこに一番力を入れたら効果的か」と考えたときに、複式の授業では**「定着」**の部分での活用が効果的と考えました。タブレットを使って子どもたちに主体的な学習をさせることで、**子どもたち自身が学習の主人公**になり、定着にも繋がっていきます。

eライブラリは**間接指導時に個に応じた学習**が実現できます。難易度を自分で選べ、正誤をすぐに判定し、ヒントや解答解説もついているので、子どもたちの理解を助け、学力の定着に繋がっています。今後は自力解決が難しい児童への手当てとして、ヒントカードのように活用していけないか、模索していきたいと考えています。



瀬戸 貴之 先生



## 2・3年生 ドリルで学び合い

2・3年生（複式学級）の石崎先生のクラスでは、大型TVを使ってみんなでドリルを解きました。

### 3年生は学び合いスタイルで

3年生の導入の10分では、大型TVでドリルを提示し、学習リーダーの指示のもと、**ドリルを解き合いました**。

リーダーが中心となり、PCの操作をしながら、問題を読み上げ、問題を解く人の指名を行います。答えるときは1問ずつ交代しながら解き合っていました。

問題の解き合いを通じて相手を認めることで、リーダーとしての自覚と、**学び合いのスタイルが確立され、質の高い学び合い**が生まれるそうです。



▲ 問題を順番に答えていきます

### 2年生は教科書復習テストに挑戦！

2年生はまとめの時間に先生からの課題として、本時で学習した「かけ算」の『**教科書復習テスト**』に挑戦しました。2年生は1名のため、大きな画面を見ながら問題を解いていきます。子どもは1問ずつじっくり問題を読みながら進めていました。

教科書復習テストでは、先生が教科書の範囲からテスト形式で問題を指定することができるため、**子どもの習熟度を確認**でき、個別フォローにも役立ちます。



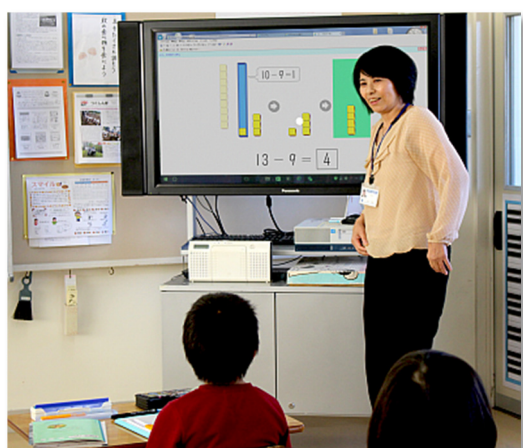
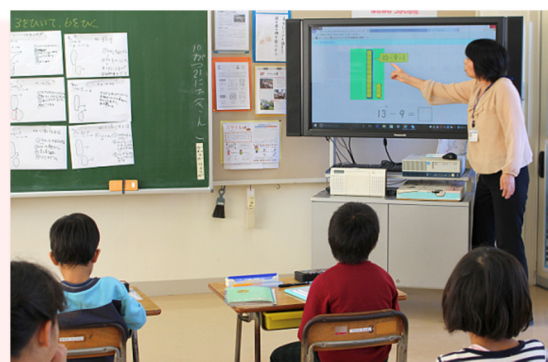
## 1年生 プロジェクタ教材で、算数がわかった！

1年生の尾形先生のクラスでは、プロジェクタ教材を大型TVに提示して「ひき算」の解説を行いました。

### ひき算のしくみをアニメーションで確認

1年生の算数の授業では、ひき算の計算の方法を考えました。授業の展開ではブロックや図を使って考えを深め、友だちと意見交換を行うと、最後のまとめでプロジェクタ教材を大型TVに提示して、先生がひき算の計算方法を解説しました。

「**導入や確認をする場面でプロジェクタ教材は手軽に使うて助かっています**」と尾形先生。アニメーションで視覚化することで、子どもの理解を深めることができます。



### 子どもの「わかった！」の音が響く

友だちの発表を聞いている間は、くり下がりについて混乱ぎみの子どももいましたが、プロジェクタ教材の解説を見ると「**そういうことか！わかった！！**」「**こっちの方がわかりやすい！**」と大きな声を上げていました。

「減加法を習得する单元では、ひき算なのになぜたし算をするのか、アニメーションで確認することができ、**子どもたちの理解を助けてくれました**」と尾形先生。子どもたちの「わかった！」の声を聞き、先生も喜んでいました。